

269) 信濃の春

庭のかたすみ水仙の花 ほころびかけてもう春ですね
晴れた朝には繁みの中を 頬白たちがさえざりわたり
信濃の春は桃も桜も あらゆる^{いのち}生命燃え上がります
何故にあなたは春を待たずに 都会の人に戻るのですか

川辺のほとり^{からまつばやし}落葉松 林 やがて緑に光ってきます
^{ゆきど}雪解け水が岩を走ると 春は山へと登ってゆきます
花と緑の信濃の春を あなたとふたり過ごしたいから
せめて杏の花が咲くまで もう少しだけ待ってください

浅間の峰が霞んでくると れんげ畑に蝶が舞います
^{あぜ こみち}畦の小径に子供らが吹く 佐久の草笛響きわたれば
春の光はゆらゆら揺れて 桜の花が街を染めます
どうぞこのまま春が行くまで あなたのそばにおいてください

信濃の春はあわただしくて 花は競って咲きそろいます
愛をつらぬく女のように ^{いのち}生命の限り咲き続けます
そして5月の緑の中で 花は静かに散ってゆきます
信濃の春を^{いと}愛しむように どうぞ私を^{あい}愛してください

信濃の春はあわただしくて 花は静かに散ってゆきます
信濃の春を愛するように どうぞ私を抱いてください